

電事連会長 定例会見要旨

(2013年9月13日)

電事連会長の八木でございます。本日は、関西電力社長としての当番会見でもありますので、どうぞよろしくお願いたします。

まず、はじめに、電気料金の値上げについて申し上げたいと思います。北海道、東北、四国の3社におきまして、8月6日に経産大臣より認可をいただき、9月1日から値上げを実施させていただきました。震災以降、これまで6社において値上げを実施させていただいたこととなりますが、皆さまの生活や産業活動に多大なるご負担をお掛けいたしておりますことを、大変申し訳なく思っております。引き続き、徹底した経営効率化に努めてまいりますので、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、本日は、電力10社の「今夏の電力需給」、「福島第一原子力発電所における汚染水問題への取り組み」の2点について申し上げます。

1. 「今夏の電力需給」について

最初に、「今夏の電力需給」について申し上げますが、今年の夏も、沖縄を除く全国におきまして、節電にご協力をいただいているところであります。皆さまにご不便をおかけしておりますことを、お詫び申し上げますとともに、ご協力に対しまして、心より御礼申し上げます。

それでは、まず気温の状況につきまして、資料の1ページ目、左上のグラフをご覧ください。7月の最高気温は全国平均で31.7℃、8月は33.5℃と、猛暑であった2010年とほぼ同程度となり、特に西日本では、観測史上1位という記録的な猛暑となりました。

こうしたなか、左下のグラフでお示ししました10社合成の最大電力は、8月9日に、1億5,907万kWを記録いたしました。昨年の夏に比べまして2%、312万kWの増となっております。最大電力発生時の供給力は、右上の需給バランスの表のとおり、1億7,368万kWで、使用率は92%となりました。地域別では、中西6社において8月22日に最大電力を記録し、使用率は95%にまで達しました。高気温による需要増と発電所トラブルが重なり、大変厳しい需給状況となりましたが、緊急応援融通の実施などにより、なんとか安定供給を維持することができました。

なお、右下のグラフは、気温の影響を除いて比較した最大電力の推移でございます。今年の夏は、震災以降では最高となりましたが、2010年と比較いたしますと、1割程度下回っておりますので、需要面では、皆さまの節電のご協力が大きく効いているものと考えております。

一方、供給力確保策につきましては、2ページ目左の中段以降をご覧ください。震災以降、原子力の再稼働時期を見通すことが難しい中、各社におきまして、火力発電所の定期検査や補修時期の調整・繰り延べ、震災で被災した設備の再稼働、新增設の前倒し、さらには、運転年数が経過し長期停止していた火力発電所の継続活用など、最大限の積み増しを行ってまいりました。また、設備の巡視回数を増やし、トラブル予兆の早期発見に努めたり、小さな不具合については、需要が下がる夜間や休日に補修するなど、安定運転の維持に向けて様々な取り組みを進めてまいりました。

しかしながら、トラブルを完全にゼロにすることは困難でありまして、今年の夏も、火力発電所の計画外停止や出力抑制が少なからず発生しております。また、定期検査の繰り延べや高経年化火力の活用等、いわば緊急避難的な対応が今後も続くことになると、需要が高まる時期に補修せざるを得ないケースが増加したり、保安確保には万全を期してまいりますが、潜在的な故障リスクが顕在化することも懸念されます。

私どもといたしましては、猛暑や厳冬による需要増や、設備トラブルといった変動リスクにも備えながら、引き続き、需給両面において最大限の取り組みを進めてまいります。継続的に安定供給を維持していくためには、やはり、ベース電源である原子力が一定の役割を果たしていくことが、ぜひとも必要であると考えております。

2. 福島第一原発汚染水問題への取り組み」について

次に、福島第一原子力発電所における汚染水問題についてご報告いたします。

汚染水の問題につきましては、地元の皆さまはもとより、ひろく国民の皆さま、さらには海外にもご心配をおかけしており、私どもといたしましても大変懸念すべき問題であると、重く受け止めております。

この問題に対しましては、東京電力が厳しい環境の中で懸命に収束作業を行っておりますが、国におきましても、一層前面に出て取り組んでいただくということで、今後の進展を期待しているところであります。

こうした中、私どもといたしましても、この問題に対し電力業界全体で取り組んでいくという方針を、本日の総合政策委員会において確認いたしました。

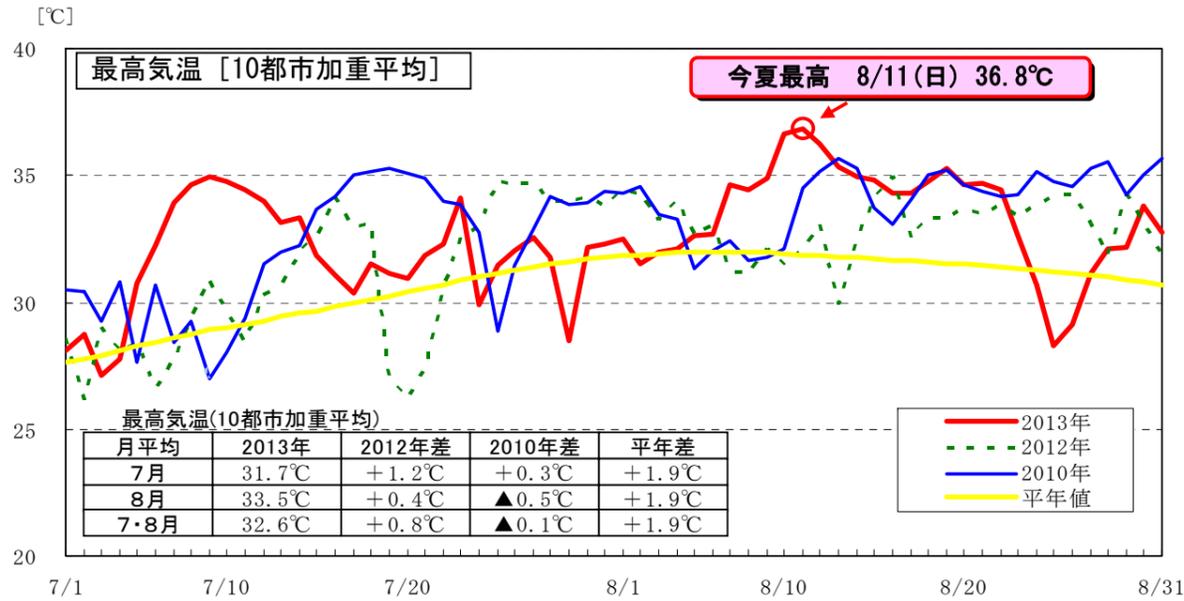
具体的には、東京電力から、放射線管理等に関わる要員の派遣、放射線測定器等の資機材の提供について支援要請がありましたので、まずはこれに答えていきたいと考えております。さらには、この問題を電事連内に設置しております福島支援本部の下で、「汚染水対策特別プロジェクト」として進め、支援の詳細について調整を行っていくとともに、事態の進展や東京電力の意向も踏まえながら、さらなる対応についても検討してまいります。

以上

今夏(7月~8月)の電力需給について

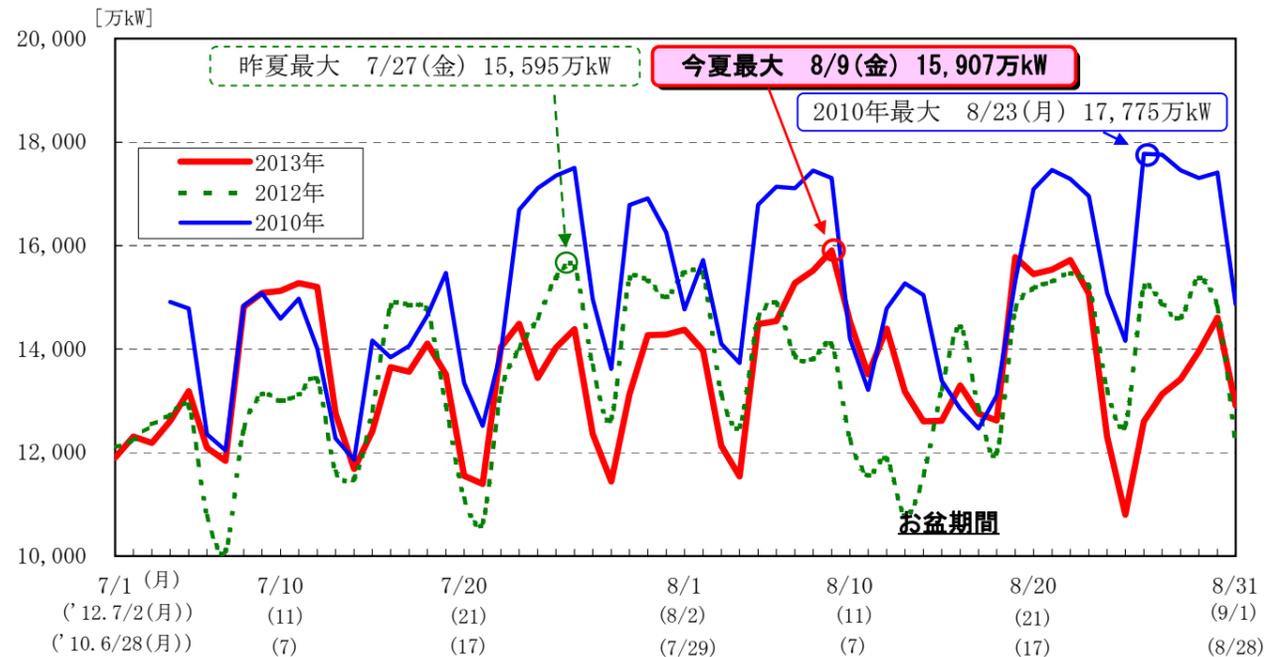
1. 気温状況

- 7月最高気温(10都市加重平均)の月平均は31.7℃と前年を1.2℃上回り、8月は33.5℃と前年を0.4℃上回った。なお、猛暑であった2010年と比較すると、7月は0.3℃高く、8月は0.5℃低かった。



2. 10社合成最大電力実績

- 10社合成最大電力は、8/9(金)の15時に発生した15,907万kWで、対前年比312万kW増(+2.0%)であった。【参考】過去最大電力:18,269万kW 2001年7月24日15時
- 最大電力が発生した8/9(金)の最高気温(10都市加重平均)は34.9℃であり、前年と比較すると0.2℃高く、2010年と比較すると0.3℃低かった。



3. 全国および地域別の需給バランス実績

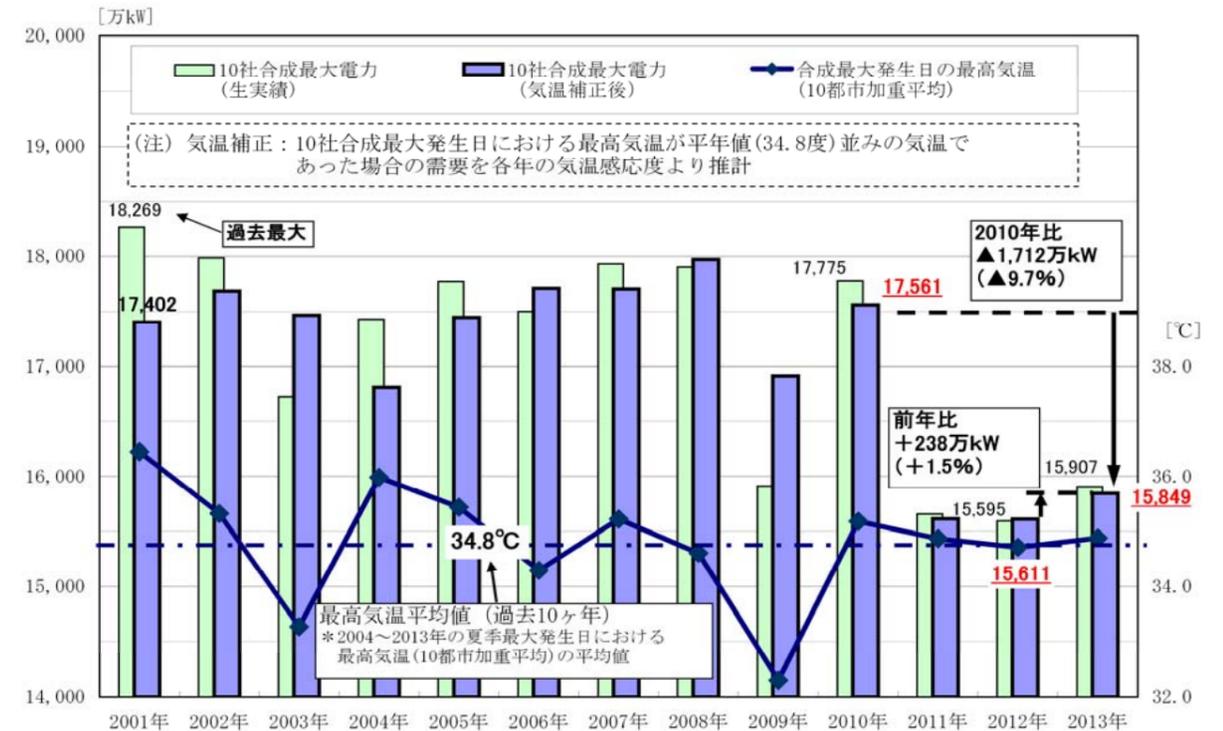
- 10社合成最大電力発生時の供給力は17,368万kWで、使用率は92%であった。
- 地域別では、東日本3社の合成最大電力は8/9(金)の15時に発生した6,781万kWで、供給力7,522万kWに対する使用率は90%であった。
中西地域6社の合成最大電力は8/22(木)の15時に発生した9,233万kWで、供給力9,680万kWに対する使用率は95%であった。

	(単位: 万kW, %)	<参考> (単位: 万kW, %)	
	10社合成最大	東日本3社合成最大	中西地域6社合成最大
最大電力	15,907	6,781	9,233
発生日時	8/9 15時	8/9 15時	8/22 15時
供給力計	17,368	7,522	9,680
予備力(予備率)	1,462 (9.2)	741 (10.9)	447 (4.8)
使用率	92	90	95

(注) 四捨五入のため、差引きは一致しない

4. 10社合成最大電力の推移

- 10社合成最大電力を過去10年間の最高気温の平均値(34.8℃)で補正すると、今夏は震災以降で最高となる15,849万kWとなり、対前年比238万kW増(+1.5%)であった。
- 震災前の2010年と比較すると、1,712万kW減(▲9.7%)となり、全国的に節電をお願いした昨年、一昨年に続く低い水準であることから、お客さまの節電のご協力が大きな要因と推定される。



5. 各社の最大電力並びに発電電力量実績

- 各社別最大電力は、北海道、東北、北陸を除き前年を上回り、震災後最大となった。10社合成、中西地域6社合成最大電力も前年を上回り、震災後最大となった。
- 7,8月の発電電力量は10社合計で1,692億47百万kWhとなり、対前年比+0.9%、2010年比▲9.2%であった。

(単位: 万kW, 百万kWh, %)

会社名	最大電力					発電電力量			
	使用率	発生日時	前年比	2010年比	(7,8月合計)	前年比	2010年比		
北海道	450	83	8/7 15時	97.0	88.8	5,319	99.4	90.9	
東北	1,322	88	8/19 15時	96.9	84.9	13,983	97.9	86.6	
東京	* 5,093	92	8/9 15時	100.3	84.9	53,452	100.5	86.7	
中部	* 2,623	96	8/22 15時	105.9	96.8	25,290	101.3	95.2	
北陸	526	95	8/19 15時	100.0	91.8	5,388	99.1	92.3	
関西	* 2,816	96	8/22 15時	105.0	91.0	28,931	101.4	91.5	
中国	* 1,112	96	8/22 15時	102.5	92.6	11,795	100.6	93.9	
四国	* 549	95	8/22 15時	104.5	92.1	5,664	102.3	92.6	
九州	* 1,634	96	8/20 17時	107.4	93.4	17,623	103.9	96.5	
沖縄	* 152	73	8/8 20時	102.1	102.4	1,803	103.4	101.5	
東3社合成	6,781	90	8/9 15時	98.8	85.8	72,754	99.9	87.0	
中西6社合成	* 9,233	95	8/22 15時	105.9	94.1	94,690	101.6	93.8	
10社合成	* 15,907	92	8/9 15時	102.0	89.5	169,247	100.9	90.8	

* : 東日本大震災後最大

(注) 発電電力量は7月確報値、8月速報値

6. 供給力確保等に向けた取り組み

【供給力の確保】

○ 火力発電所の補修時期や定期検査時期の調整

- ・設備の保安上、繰り延べが困難な補修を除き、夏季を避けて補修時期を調整。災害規定の適用による定期検査時期の延長も実施。

○ 東日本大震災により被災した火力発電所の再稼働

- ・被害の大きかった東北電力原町火力発電所1,2号機(各100万kW)も2013年4月までに復旧し、全ての被災火力発電所が復旧(1,360万kW)。

<東北電力・原町火力発電所の復旧状況>



復旧前



復旧前



揚炭設備 復旧後



石炭輸送コンベア 復旧後

○ 火力発電の新増設等

- ・可能な限り建設作業を前倒し、早期の営業運転開始に努め供給力を確保。また、運転開始が近い火力発電所の試運転電力も活用。
- ・ガスタービンコンバインドサイクルは夏季に出力が低下するため、吸気冷却装置を導入し、出力低下量を改善。

○ 長期停止火力発電所及び緊急設置電源の継続活用

- ・震災以降再稼働させた長期停止火力発電所を引き続き活用(280万kW)。
- ・震災以降設置した緊急設置電源を引き続き活用(340万kW)。

<震災以降再稼働させた長期停止火力発電所の例>



東京電力・横須賀火力発電所(2011年4月から順次再稼働)



九州電力・苅田発電所新2号機(2012年6月から再稼働)

○ その他

- ・水力発電所の補修時期の調整。
- ・火力燃料の追加調達の実施。
- ・各社の需給状況に応じて、一般電気事業者間での電力融通、さらに、自家発や新電力・発電事業者からの受電及び市場を活用した調達を実施。

【安定運転に向けた取り組み】

○ 夏季前の設備点検による健全性の確認

- ・火力発電所毎の運用状況、設備状況を踏まえながら夏季前に適切な点検及び補修を実施。特に長期停止火力発電所については、高経年によるリスクも内包しており、重点的に点検及び補修を実施。

○ 巡視等によるトラブルの予兆管理の強化

- ・設備の巡視頻度の増、運転データの監視強化等により、トラブル予兆を早期に発見。

○ 夜間・休日を利用した早期の補修実施

- ・軽微な不具合は適切に状況を判断し、電力需要が下がる夜間・休日等を利用して補修。
- ・万一のトラブル発生時における、迅速な復旧に向けた体制の構築及び資機材等の確保。

【需要面の取り組み】

○ 電気料金メニューの拡充等

- ・節電・ピークシフトを促すような電気料金メニューの拡充等。

○ 需給ひっ迫時の対策

- ・需給ひっ迫時の対策として、随時調整契約等の積み増し、その他ディマンドレスポンスやアグリゲーター等を活用。

○ お客さまへの情報発信

- ・ホームページ上での節電呼びかけや、節電に関するパンフレット及びチラシの作成など、様々な方法でお知らせを行うとともに、「でんき予報」など需給状況の情報を発信。